

みんな来てね! 楽しい企画でまってるよ!!



三河本苑 * 令和5年

少年夏季学級

青年部長 三矢 馨直

【日 時】 令和5年 7月23日(日)
 【場 所】 大本三河本苑、竹島水族館
 【会 費】 大人：1,000円

〈内 容〉

- ・ 受付：9時30分～10時
- ・ 時間：10時～16時

お土に親しみ、自分だけの野菜を育てよう

● プランターもしくは牛乳パック
 を使用して、野菜を栽培!!

(スイスチャード・小松菜・ミニニンジン)

● 昼食は、お隣「とまりん」

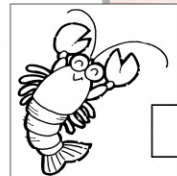
(好きなものを買って、本苑で昼食)

● ご当地人気の「竹島水族館」

(「さわりんぷーる」は子どもたちに大人気)

ワクワク
ドキドキ

楽しさいっぱい



申込み / 7月月次祭(16日) 本苑事務局まで

三河本苑だより

7月号
 2023・7No.494
 (発行者)
 大本三河本苑
 〒443-0031
 蒲郡市竹島町28-5
 TEL 0533-69-7518
 FAX 0533-69-1455

【聖師様の愛善の道】
 えらまれて神のつかいとなりながら
 わが靈魂(たましい)の曇りしを恥ず
 人のこと注意(きつけ)するよりおのがなす
 日々の行為(しわざ)に心くばれよ

万祥殿献勞奉仕 のお願い

誠心会長 三浦 浩
 瑞生大祭の前に、恒例
 の聖地天恩郷献勞奉仕
 を行います。夏の暑い時
 期ではありますが、多
 勢の皆様のご参加をお
 願いします。

【日時】 7月30日
 (日) 午前9時半頃よ
 り午後3時まで

【場所】 万祥殿集合

【服装】 男性はご神殿
 内の清掃を行います。
 ・白作務衣をお持ち
 でない方はお貸し
 します

【交通手段】 各自乗用車
 などに乗り合わせ現地
 集合

【補助】 乗用車1台に
 つき三千円補助

「本部講師葬祭研 修会」のご案内

祭務部長 調子真一
 【開催日】 8月26日
 (土) 25 日(日)
 8:30 受付

7月の行事

- 15日(土) 新生姜の佃煮作り (直心会)
- 16日(日) 本苑7月月次祭
- 23日(日) 少年夏季学級
- 30日(日) 誠心会万祥殿献勞

8月の行事

- 8日(火)～9日(水) 東海教区特任宣伝使 研修会 (亀岡)
- 20日(日) 本苑8月月次祭
- 全体会議
- 26日(土)～27日(日) 本部講師葬祭研修会

七月添釜 七夕茶会

入席前に願い事をお書き
 ください。
 一服を差し上げます。
 芸術部 / 直心会第二ブロック

9:00 講習開始
 【場所】 三河本苑

三河本苑公式LINE



↑ コチラから
本苑だより更新中

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします

私の思い

高浜支部 伊藤 登久子

「月山不二と三河の芝」

開教百三十年・長生殿完成三十年の昨年発行の「ご神体山『本富士』特別参拝の栞」によれば、聖師さまが本富士山上に破壊された神殿の石片を集め、土盛りされて月山不二を築かれ、その完成式を執行されたのが昭和二十一年六月四日と記載されている。

その月山不二に土盛りの流失を防ぐべく、芝を植えたいとのお話が高浜支部に届いたのは完成後間もなくだったと思う。その芝も植木屋にある葉の細い高麗芝でなく、野生の朝鮮芝をとの事で、早速支部長都築さんと、野村さんが探された。すると、野村さんの田畑の土手の畦に大量に見つかり、早速採取して綾部に送られた。野村さんの住所は刈谷市小垣江町で、都築さんの子息清さんの奥さんの実家である。三河に長く自生の芝だと思ううれしかった。

植付の日、初めて月山不二を拝しました。頂上に富士の霊石の鎮まる月山

不二は本当に清らかで高々しかった。

奉仕させて頂いたのは、都築坂次郎さん、野村さん、金原房松さん、母の三輪ふみゑと小学生六年生の私、三輪登久子だったと思う。

月山不二の八合目より下部へ一尺程の間隔を置いて、印がお山を取り巻いてをり、そこへ芝を植えていった。本宮山登拝の上、さらに月山不二へ登らせて頂く畏さに言葉もなく、ただただうれしく有難かったのを覚えている。芝植えの後の養生は本部の方にお任せして、私達は帰ったと思います。

あれから七十余年、先進の方々は故人となられ、本宮山登拝が許され緑の月山不二を拝する事のできたのは私一人となった。

思うのは当時の人々の熱意である。弾圧下の戦中にも戦後の混乱の中にも、素直に一筋に、神さまに現世の業に懸命に向かわれた。改めて見習いたいと思う。

各葬祭ブロック長、機関長、信徒の皆様方、多数参加されますようお願い申し上げます。基本動作から招魂式、

発葬式、家祭、五十日合祀祭、一日葬までの実習を行います。又、袍衣、浄衣の着付けの実習も行います。ご都

合で1日でも結構です。美しい大本祭式を目指しましょう。多数の皆様をお待ちしております。

新聞ちぎり絵

芸術部長 高井 郁代

私を含め7名の参加がありました。最初なので中日新聞から出ている下絵ポストカードブックを使いました。写真をお持ちになりデッサンから始めた方もおられました。

- ①下絵ポストカードを選ぶ
- ②新聞紙から絵に合った色を選ぶ
- ③型どり丁寧にしきる
- ④薄く糊を塗る
- ⑤ピンセットを使い貼る

試行錯誤しながら色を選び、ちぎっては貼るの繰り返しですが、ゆったりとした時間の中でお喋りをしつつ、各々のペースで疲れたらお茶など頂き休憩を挟み、後半は皆さん無口になり真剣に取り組まれていました。



楽しくわくわくする時間を過ごせた事に感謝いたします。1回では終わらせず2回3回と続けたいと思っています。作品は秋季大祭の作品展に出す予定です。

心の隙

(3)

一日出塵先生之旧稿より
特任宣伝使 芝田豊海

ところが悪霊より来る場合は万事が前と反対であって、何となく物事が心配で思う事が偏していて不愉快で、ともすると人を排斥し障害する様なことを思はされ、すべてに暖かい穏やかな情味を持つことが出来ないのであります。無論仕事も停滞し勝ちなのであります。

斯う言ってみると、中には「では我々普通の気持は大抵後の方に属している様ですが、我々は悪霊からのみの霊流を受けているのでしょうか」と尋ねられる方もあるかも知れませんが、どんな人だつて本来は神の子神の宮なのですから、始末いやかな気持の時ばかりはなく、さわやかな和やかな気持の時もあるのですが、人間は実に健忘症に出来ていて、現在の気持がいつ迄も続くかの如くに思い勝なりであります。

が実際は、おなじ気持ちがいっつもいつまでも続くものではありません。苦しい悩ましい嫌な思いのする時でも、我と我が肉体に「自分は今の都合で悪霊と戦っているのだ」ということさえ自覚して緊張しておれば、ある時間さえ経過すればやがて嘘のように気分がガラリと変わって来るものであります。只その信仰がよほど徹底していないと、強烈な霊にやられると、その間が堪えられんことになるのであります。

要するに赤児のような私心なき純真な無邪気な気持でさえ居たら、常に間違いはないのです。假令(けりょう)、外見上の行動が他(ひと)から変に思われる場合でも、神様は知ってをられるから、その結果は可(よ)いのであります。

連載 大本之ぼれ話